

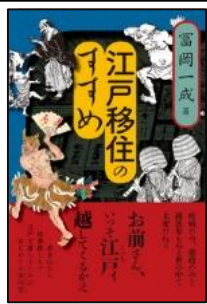


今年のNHK大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」の主人公、蔦屋重三郎（1750－1797）は吉原で生まれ、7歳で喜多川氏が経営する商家の蔦屋に養子に入りました。蔦屋は吉原で茶屋を営んでいました。重三郎の代になり貸本と書店を始めました。暫くして書物問屋や地本問屋（※）が建ち並び日本橋へ移り、出版業を始めました。

田沼時代と呼ばれる自由な空気の中で、華やかで享乐的な町民文化が花ひらき、重三郎は山東京伝、曲亭馬琴、大田南畝、喜多川歌麿、葛飾北斎、十返舎一九、最後には東洲斎写楽をプロデュースし江戸文化の発展に貢献しました。

今回はそんな独自の発展を遂げた、江戸文化についての本を集めました。

※地本（じほん）とは……江戸で出版された大衆本の総称



### やってみよう！江戸暮らし

『江戸移住のすすめ』 富岡一成／著 旬報社 2021 382.1

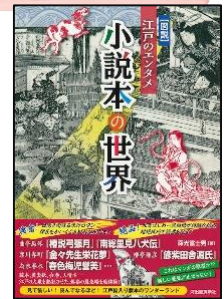
江戸での物件探しから身だしなみ、はては、江戸前啖用語集に簡単江戸料理レシピまで。裏路地には棒手振（ぼてふり）と呼ばれる行商人が行きかい、長屋から店に行かずとも買物ができます。銭湯帰りに屋台飯。今日からあなたも楽しい江戸暮らし。

### 江戸のエンタメ

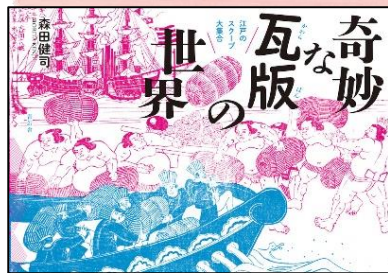
『〈図説〉江戸のエンタメ小説本の世界』 深光富士男／著

河出書房新社 2022 913.5

江戸時代大衆小説本は挿絵入りのものが基本でした。今でも親しまれ読まれている馬琴の代表作は、北斎とともに手掛けた読本（よみほん）『椿説弓張月』と完成までに28年の歳月をかけた『南総里見八犬伝』です。馬琴が描いた下絵との比較も載っており楽しめる一冊です。



### 江戸のスクープ



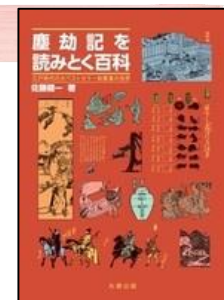
『奇妙な瓦版の世界』 森田健司／著 青幻舎 2019 070.21

テレビもラジオも無い江戸時代に活躍したマスメディア、瓦版。事件や災害情報の他に、怪異や広告、ランキングなど庶民が好むネタが満載。木版画でのイラストデザインも秀逸です。

### 和算の指南書

『塵劫記を読みとく百科』 佐藤健一／著 丸善出版 2021 419.1

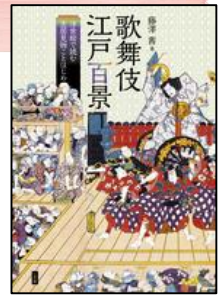
「塵劫記（じんこうき）」は江戸時代の大ベストセラー算術書です。日本独自の図解や言葉を用いた数学史と「塵劫記」の算術を活用した江戸の生活様式を知ることができます。和算の油分け算・倍増し算など数多くの解説があり興味深いです。



## 浮世絵の中の歌舞伎

『歌舞伎江戸百景』 藤澤 茜／著 小学館 2022 774.2

江戸時代中期以降、歌舞伎の人気が高まるとともに、飛ぶように売れた人気歌舞伎役者の浮世絵。生活のなかで用いる団扇、双六などの娯楽や広告宣伝にも取り入れられ、庶民の日常にありました。そんな歌舞伎と浮世絵の関係をひも解いています。



## 知りたい！江戸の仕事

『江戸のフリーランス図鑑』 飯田泰子／著 芙蓉書房出版 2023 384.3

身一つで往来を売り歩く「出商人（であきんど）」と呼ばれる生業には、食べ物、住まいの道具、薬などの生活を支える行商から、玩具、大道芸などの娯楽まで数多くの種類がありました。中には不思議な商売もあり、じっくりみると江戸の暮らしが分かって面白い本です。



## 富士山に挑む 歌川広重浮世絵の謎

『歌川広重富士三十六景』 歌川広重／〔画〕

町田市立国際版画美術館／監修ほか 二玄社 2013 721.8

歌川広重が晩年に手掛けた、富士山を題材とした浮世絵「富士三十六景」全 36 枚を堪能できます。自らのスケッチを基に制作された浮世絵は、構図や色使いが見事です。解説もわかりやすく、浮世絵とあわせて読むと理解が深まります。



## 江戸文化の入門書

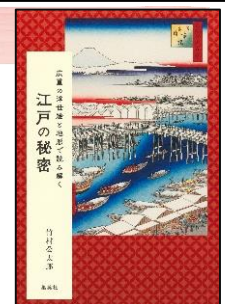
『江戸文化の見方』 竹内 誠／編 角川学芸出版 2010 210.5

戦（いくさ）の少ない江戸時代。中期以降は生活を楽しむ庶民によって、成熟期を迎えた江戸文化が花盛りとなりました。本書は暮らし・住まい・装い・食・遊び・旅・芸事・絵画・出版・教育そして信仰と宗教など江戸文化を総括しています。江戸文化は浮世絵や歌舞伎が有名ですが、生活全てが文化と知ることができます。

## 家康によって造られた江戸

『広重の浮世絵と地形で読み解く江戸の秘密』 竹村公太郎／著  
集英社 2021 210.5

川辺の風景からは水運を、参勤交代から言語を、馬のお尻の構図からリサイクルを、堤の画からは治水をと、歌川広重の 23 枚の浮世絵から浮かび上がる江戸の成り立ちと暮らしを読み解いていきます。



## 絢爛豪華な歌舞伎絵本

『義経千本桜』 橋本 治／著 岡田嘉夫／画 ポプラ社 2005 6

現代の浮世絵師と呼ばれていた岡田嘉夫が、艶やかな歌舞伎世界を見開きいっぱい描いた絵本です。文字の多さには圧倒されますが、内容は橋本治のわかりやすい文章で、歌舞伎に興味をお持ちの方や馴染みのない方にもおすすめしたい本です。

